

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長  
( 公 印 省 略 )

### 病害虫発生予察注意報について

令和 3 年度病害虫発生予察注意報第 5 号を発表したので送付します。

## 令和 3 年度 病害虫 発生 予 察 注 意 報 第 5 号

- 1 作物名 小ギク
- 2 病害名 ハダニ類 (ナミハダニ黄緑型)
- 3 発生地域 沖縄本島、伊江島、久米島

#### 4 注意報発令の根拠

沖縄本島中南部における 10 月第 4 週のほ場調査の結果、ハダニ類の発生ほ場率は 62.5% (平年値 : 7.2%)、茎当たり成虫数は 2.0 頭 (平年値 0.02 頭) と平年より多かった (図 1、2)。病害虫防除員からの報告によると、久米島で中発生であった。今回発生が確認されたハダニは主にナミハダニ黄緑型であった (図 3)。

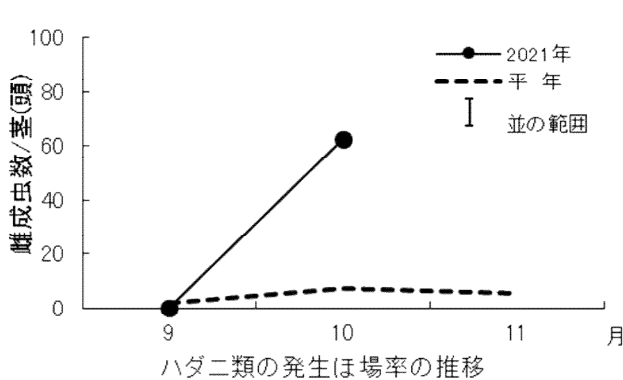


図 1 ハダニ類 発生圃場率の推移

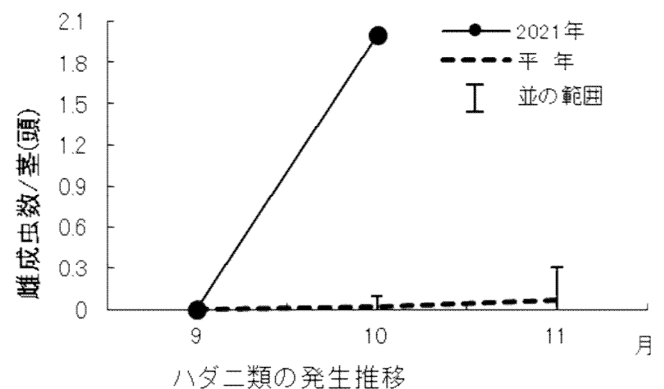


図 2 ハダニ類 発生の推移

#### 5 発生生態および被害

- (1) 本種は様々な農作物を加害し、多種の農薬に対して抵抗性を発達させることが知られている重要害虫であり、本県に分布するハダニの中では最も防除が難しい種である。
- (2) 施設作物およびキク (露地栽培を含む) での発生が主であり、キク以外の露地作物における発生は非常に稀で、沖縄本島と周辺のいくつかの離島では普通に見られるが先島諸島では定着は未確認である。
- (3) 雌成虫は胴体が黄白色～黄緑色で、ややオレンジを帯びる場合もある。通常は後頭部にほぼ左右対称の濃い緑色の斑紋があり、この斑紋が胴体全体に拡大してほぼ真っ黒に見える個体がいることもある。足は黄白色。雄成虫は胴体前部と脚は白色～黄白色。胴体後部は、前部と同色から黄緑色まで変異が大きい。
- (4) 本種は花き類ではキク、ガーベラ、キツタ (アイビー) 類に寄生し、初期症状はアザミウマに酷似し、初めかすり状の小斑点が部分的に見られ、多発すると葉全体に広がりザラザラしたサ

メ肌状になり、更に増えると株の上位に集中し、クモの巣状に糸を張り巡らしそこを移動する。放置すると株は黄化し、枯死に至る。

## 6 防除上注意すべき事項

- (1) 苗への寄生に注意し、苗床での防除を徹底する。
- (2) 多発してからでは防除が困難となるため、かすり状の小斑点を見つけたら直ちに防除する。ハダニが圃場外から侵入してきた場合、通常は圃場外周に位置する株の下位葉から食痕が生じるため、これらの株を定期的にチェックすることが望ましい。
- (3) 種によって農薬の効果は大きく異なるため、効果のない農薬を誤って散布することを避けるために発生種を特定し、その種に合った農薬を選んで使用することが望ましい。
- (4) 薬剤に対する抵抗性がつきやすいので異なる系統の殺ダニ剤を組み合わせるローテーション散布を行う。なお、抵抗性発達の危険が少ないとされる気門封鎖剤は本種に対して比較的高い効果を示すことから、発生初期は気門封鎖剤を連用し、抑圧しきれなかった場合それ以外の殺ダニ剤を使用することが望ましい。
- (5) 開花期以降の発生も多く見受けられるので開花前の防除も徹底する。
- (6) 寄生葉や雑草などは速やかにビニール袋などに入れ、ハダニが逃げ出さないように袋の口を閉め、太陽光の当たるところで数日間放置し、蒸し殺すことが望ましい。



図3. ナミハダニ黄緑型の雌成虫

---

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0980-82-4933

ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>